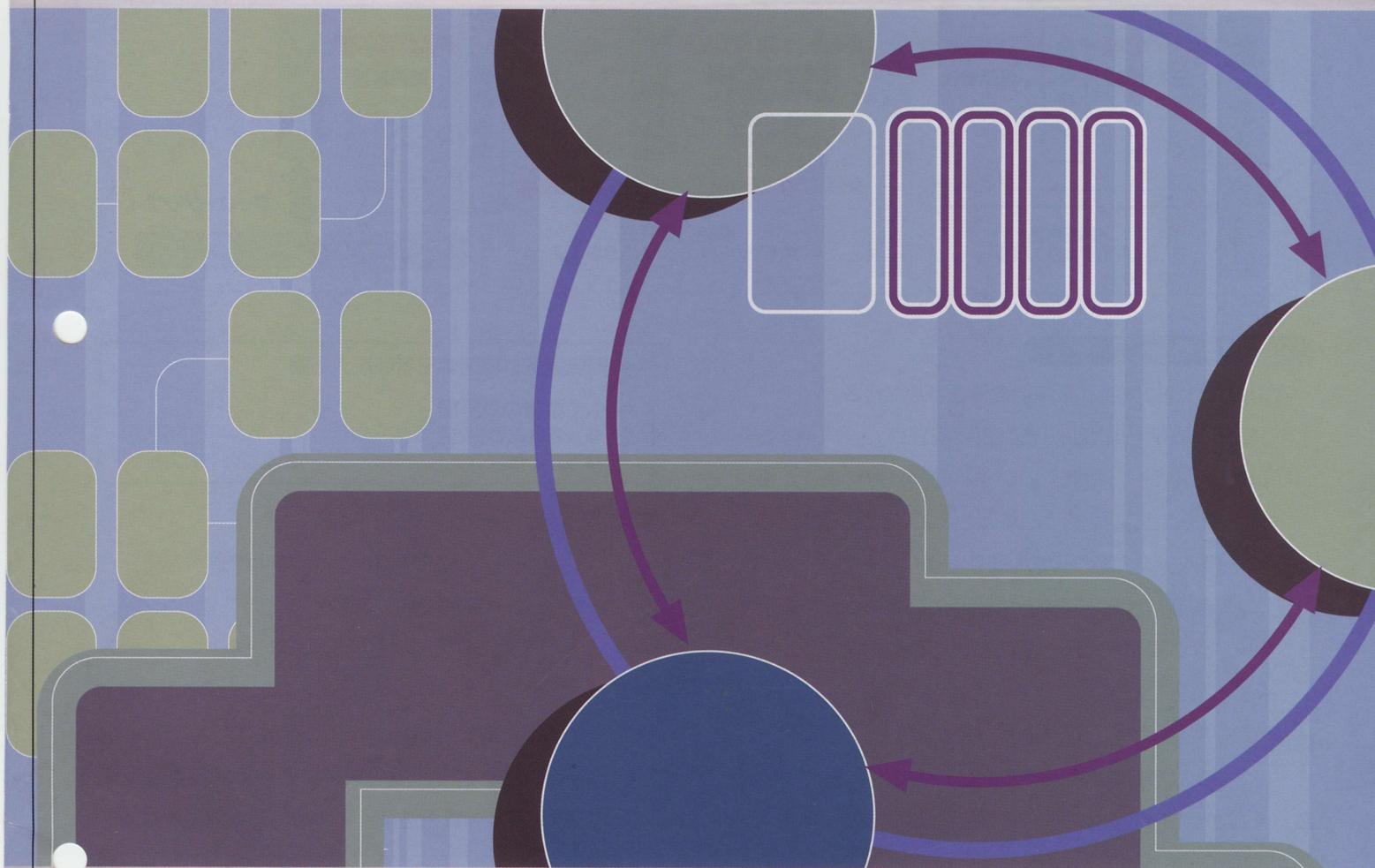


おがやま

岡山県産業支援ネットワーク
<http://www.optic.or.jp>

産業情報

財団法人岡山県産業振興財団(岡山県中小企業支援センター)



特集

1. 企業における省エネルギー対策 「改正省エネルギー法」とケーススタディー
2. 最先端のバイオテクノロジーを研究 岡山県生物科学総合研究所
3. ハノーバー・メッセ2007 「マイクロものづくり岡山」ブースを開設
4. 西日本の産業拠点おがやま 県内の産業団地情報

人・企業・製品

プチホテルゆばらリゾート / (有)マンタ
(株)ユニバーサルテクノロジーズ

8

2006

廃食用油で走るロンドンタクシー 湯原温泉の環境への恩返し



ロンドンタクシー「ビッグベン」の前で、「燃料はその時使った食材の匂いがするかな」と茶目っ気たっぷりに語る古林伸美さん

温泉街活性化の仕掛け人

全国露天風呂番付で「西の横綱」の湯原温泉。砂湯（砂噴き湯）の露天風呂で知られ、かけ流しはもとより、豊富な湯量は湯布院をしのぎ、1日一人当たり15tが使用可能なことでも横綱の名にふさわしい。

昭和の良き時代を思わせる温泉街にあって、外観は洋風なたたずまいだが、その名の通り、こぢんまりと温泉街に溶け込み、家庭的な温かさが感じられる「プチホテルゆばらリゾート」。そのホテルを経営する古林伸美さんは、湯原温泉旅館協同組合（以後「組合」という）の組合長も務める。

これまでも古林さんは、旅館業界でいち早くインターネットによる集客に取り組んだほか、「ほっと626（露天風呂の日）」を仕掛けたり、平成16年には「人に優しい地域の宿づくり賞」で最優秀賞（厚生労働大臣賞）を受賞

した「温泉指南役」などを発案し、湯原温泉の活性化に大いに貢献してきた。

そんなアイデアマンの古林さんが「この湯原温泉の空気をきれいにしたい

んです」と新たな事業について笑顔で語ってくれた。

自然環境への恩返し

湯原温泉の旅館数は昭和47年から変わらず、訪れる観光客数も昭和47年に27万人を記録した後は、20万人前後を横ばいで推移しているという。

そんな中、昨年11月、組合と(有)エコライフ商友が提携し、「真庭EDF（エコディーゼル燃料）事業」を開始した。「湯原温泉のお湯は山や川に注いだ雨からいただいたもの。温泉に頼っている町としては、自然環境への恩返しという意味から資源を有効に使い、空気をきれいにすれば、お湯は永続的にわき出るはず、とこの事業に取り組んでいます。ロンドンタクシー『ビッグベン』は、その事業のシンボルなんです」と古林さんは話す。

プチホテルゆばらリゾート
代表取締役 古林 伸美さん

真庭EDF事業は、湯原温泉地域の旅館や各事業所、さらには一般家庭から出る廃食用油を組合が1ℓ10円で購入して、エコライフ商友が精製して旅館の送迎用バスなどに利用するリサイクル事業。「組合が1ℓ75円で販売しています。原油高で軽油も高騰している中、コスト削減にも一役買っているのでは」と得意な表情を浮かべた。

精製方法は、廃食用油にアルコールと苛性ソーダを入れ、グリセリンとメチルエステルに分解。そのチルエステルを3度洗浄してエコディーゼル燃料が精製される。残ったグリセリンは石けんに加工し、無料で配るといふ。

EDFのシンボル「ビッグベン」

現在15件の旅館がこのエコディーゼル燃料を利用している。実際燃費も良く、ロンドンタクシー「ビッグベン」（2,800cc）の場合1ℓ14~15kmという。その上、軽油と違って排気もきれいで空気を汚さない。まさに「空気を



ほっと626露天風呂の日。真庭EDF事業を街頭でPR

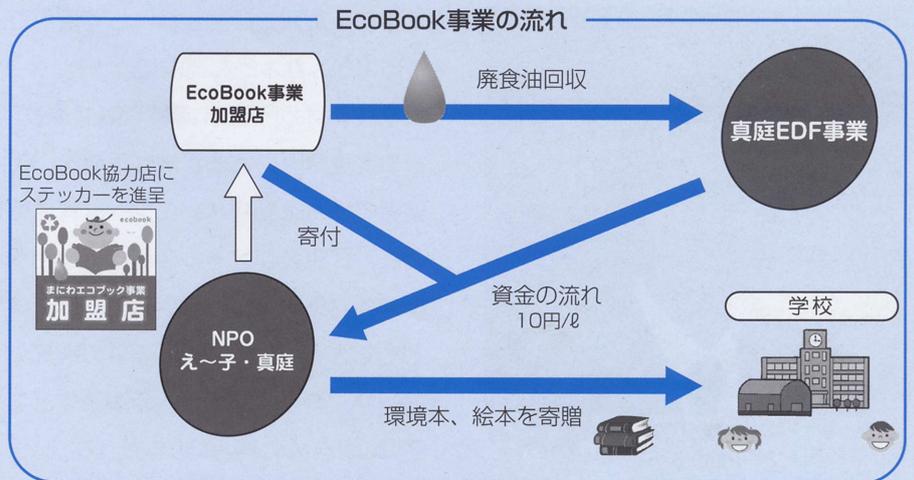
きれいにしたい」と願う温泉街にマッチした事業だ。黒くクラシックなボディラインのビッグベンは7人乗り。見た目は大きく感じるが、細い路地や曲がった道も小回りが利き、スムーズに走ることができる。このビッグベンを使って、ホテルでの環境セミナーの後、ガイド付きで温泉街を案内する「EDF体験乗車(有料)」も行っている。

地域ぐるみの環境対応目指す

この事業はこれだけでは終わらない。真庭市の教育委員会とも協力し、真庭EDF事業とコラボレーションした「まにわエコブック事業」へとつながっていく。回収時に旅館や事業所(まにわエコブック事業加盟店)が出した廃食用油の売却金を寄付という形で、今年4月に設立したNPO『え〜子・真庭』にプールして、真庭市の各学校に環境教育に関する本や絵本を寄贈するというもの。6月27日(火)に初めて本を購入するための益金が寄贈された。「旅館や事業所だけでなく、地域



ビッグベンで温泉街を案内する古林さん



の方にも広く真庭EDF事業を浸透させたい。子供たちにも環境に対する考えを深めてもらいたい」と言う。

ここで古林さんは「真庭EDF事業は、湯原温泉の空気をきれいにしたいという気持ちから、今まで川に流したり、料金を払って廃棄していた廃食用油をエコディーゼル燃料として活用しています。そして、まにわエコブック事業では、寄贈した本でこれからの子供たちが環境について関心を持つことで環境改善につながる。実はムダを作らない“ゼロエミッション”が目標なんです」とわが意を得たように述べた。

次なる取り組みに期待

さて、これからこの事業はどのようなつながっていくのでしょうか。

「ビッグベンを使って、産業観光もできるのではないのでしょうか？」と少し思案顔で答えた。「この事業では一切の補助を受けていない。日本では

初めての試みだと思います。ロンドンタクシーや送迎バスは廃食用油から出る量の需要と供給からいっても湯原温泉近辺に限った送迎車として使用します。それを見に企業の方や、地方団体などの方が湯原温泉へ訪れてくれるといいですね」と古林さんは期待を込める。「ただ、何かが足りない。例えばそういった事業を行っている県などが広報してくれるとか、インターネットなどを利用した観光に関する電子パンフレットなどを集約したようなシステムを作るとか…」と行政との連携も視野に入れて、湯原温泉への発展に力を注ぎ続ける古林さんは、新たなアイデアを模索しているようだ。

PROFILE	
代表者	古林 伸美
所在地	真庭市湯原温泉68
TEL	0867-62-2600
創業	昭和25年
資本金	1,000万円
従業員数	5人
http://www.net626.co.jp/	

